

山ごころ

大滝せせうぎ

里ごころ

はたおと秩父

秩父市

地域おとし

協力隊たより

1月号

No.26



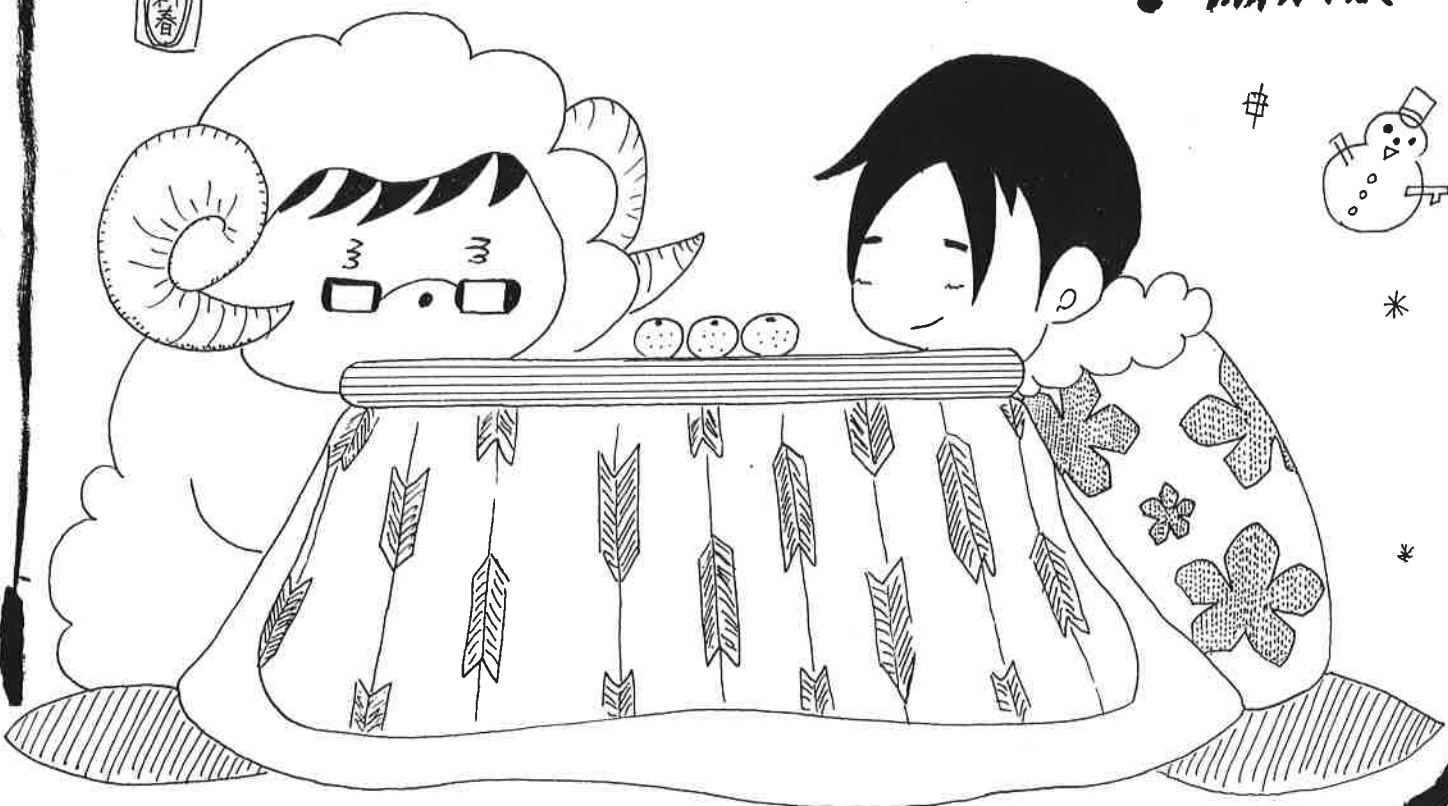
佐俣
隊員

吉本
隊員

明けまして

おめでとうございます

今年もおろしくお願ひします。協力隊



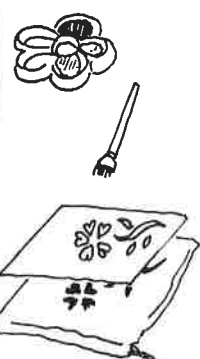
1/5 高篠小学校型染出前授業

十二月五日、高篠小学校にて年度最後の型染出前授業を行いました。高篠はかつて機屋の多かつた地域で、小学校も機屋のノコギリ屋根がイメーヅして作られていたり、入口が秩父銘仙を模した配色になっています。

三年生はークラスだけでしたが皆さん元気がよく、また秩父銘仙の説明も熱心に聞いてくれました。各小学校回って、やはり一番反応が良いのが良いのが玉虫効果を見せた時です。あとは逆の意味で反応が良いのはお蚕の字真を見せた時です。女の子の中には目を背ける子もありません。高篠小学校ではお蚕を見たことがあらず、繭もめずらしそうに見ていました。型染め体験の時は出来た中着をわがわが見せに来てくれて、一人一人の個性が光る作品を楽しく見せてもらいました。

里づくりはたおと秩父

として継ぎたいと思っ、それ以外に「ものづくりの大変さ」を知ってほしいという思いで行ってまいりました。今の時代はお店に行けば完成されたものを買ってしまえます。なのでその物がどういう風に作られたものか知らないまま使うことも多々あります。その中で少しも手にとったものがどういう素材・過程で作られていますかに興味を持ち、その技術や時間に価値を感じることや、大人になっても嬉しく思います。その点では授業内容もお話など内容の幅を広げ、今後小学校・中学校・高校でも行っていくと思います。



赤・青・黄・白の四色で色を
作りなすやいけい点も苦戦
していました。

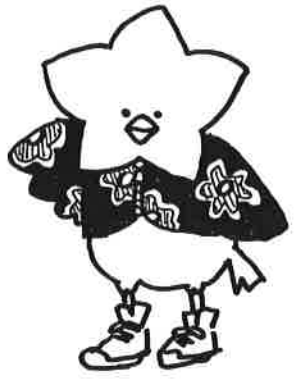


1/21 工房見学ツアー 第二回

秩父市雇用創造協議会主催で行われていた、産地と各方面のデザイナーの方々と結んで新商品開発を目指す工房見学ツアーの二回目が行われました。今回は前回とは別の織元さん・加工屋さんで、逸見織物さんの出張販売所や銘仙館、秩父神社等をまわりました。参加者の皆様いろいろな肩書の方々が、様々な視点から秩父銘仙に関するアドバイスを頂戴しました。また、今回の見学ツアー参加者の方で後日反物を購入して下さった方もいるそうです。このツアーでは新商品ができて、それが大ヒット！という流れにはならずとも、参加して下さった方々と織元さんとの新たな縁が生まれたり他のご縁を呼んで、今までは違っていた流れが生まれたり変わっていくと

思います。十一月十日の着物サロニーに参加した際に、呉服屋のブリスの方に「秩父銘仙って新しく織物で好きな方々に、今秩父銘仙の現状が知られていない」と知り、今回のようなデザインやものづくりの詳しい方々から秩父銘仙のことに直接PRできる良い機会だと改めて思いました。

秩父市
雇用創造協議会
ゆきキャラ



かえで隊長も
銘仙のいかに
まっています。

絹のみち広域連携プロジェクト

12/17 (水) 富岡製糸場 東繭倉庫

今年六月、富岡製糸場と絹産業界遺産群が世界遺産に登録されました。それを受けて日本の絹製品をもう一度見直そうとする動きが出てきました。その中の一つは、動機として、関東経済産業局が中心となり、関東の絹に関わる地域で、協力し合って地域経済を活性化させ、地方創生を進めていこうという一筋のみち広域連携プロジェクトが飛足しました。

今回はそのキックオフ会議として、関東圏の各地域の取組発表が行われました。東京、埼玉、千葉、神奈川、群馬、栃木、茨城、山梨、長野、新潟の中で希望自給率がアップした。茨城、山梨、長野、新潟の中で希望自給率がアップした。茨城、山梨、長野、新潟の中で希望自給率がアップした。茨城、山梨、長野、新潟の中で希望自給率がアップした。

他の自治体では特に栃木県小山市の取組が素晴らしい。市の自治体では、技術と職員の協力を活用し、着たい服を自分で作りたいというニーズに応えるべく、市内に縫製工房を開設し、縫製体験や縫製講座を開催している。また、市内に縫製工房を開設し、縫製体験や縫製講座を開催している。また、市内に縫製工房を開設し、縫製体験や縫製講座を開催している。

小山市は市長さん

袖で登場しました。



ちちぶ銘仙館

12/29 ~ 1/3 は休館となります。

手織り



型染め



藍染め



各種体験も承っております。
(事前予約をオススメしています。)

TEL: 0494-21-2112

お問い合わせ

秩父市役所 商工課 地域おこし協力隊

佐俣 菜津子

TEL: 0494-25-5208

MAIL: syoko@city.chichibu.lg.jp

秩父銘仙豆知識

大正から昭和初期にかけて流行した秩父銘仙は、戦後、昭和十六年、大東亜戦争の影響を受け、絹織物の製造業が大打撃を受けた。戦時中は絹織物の生産が減少し、絹織物の生産が減少した。戦時中は絹織物の生産が減少し、絹織物の生産が減少した。戦時中は絹織物の生産が減少し、絹織物の生産が減少した。

秩父丸所 甲午歳 総開帳 第二十八番 石龍山 橋立堂

雲の海 たち重なるは 雲の波

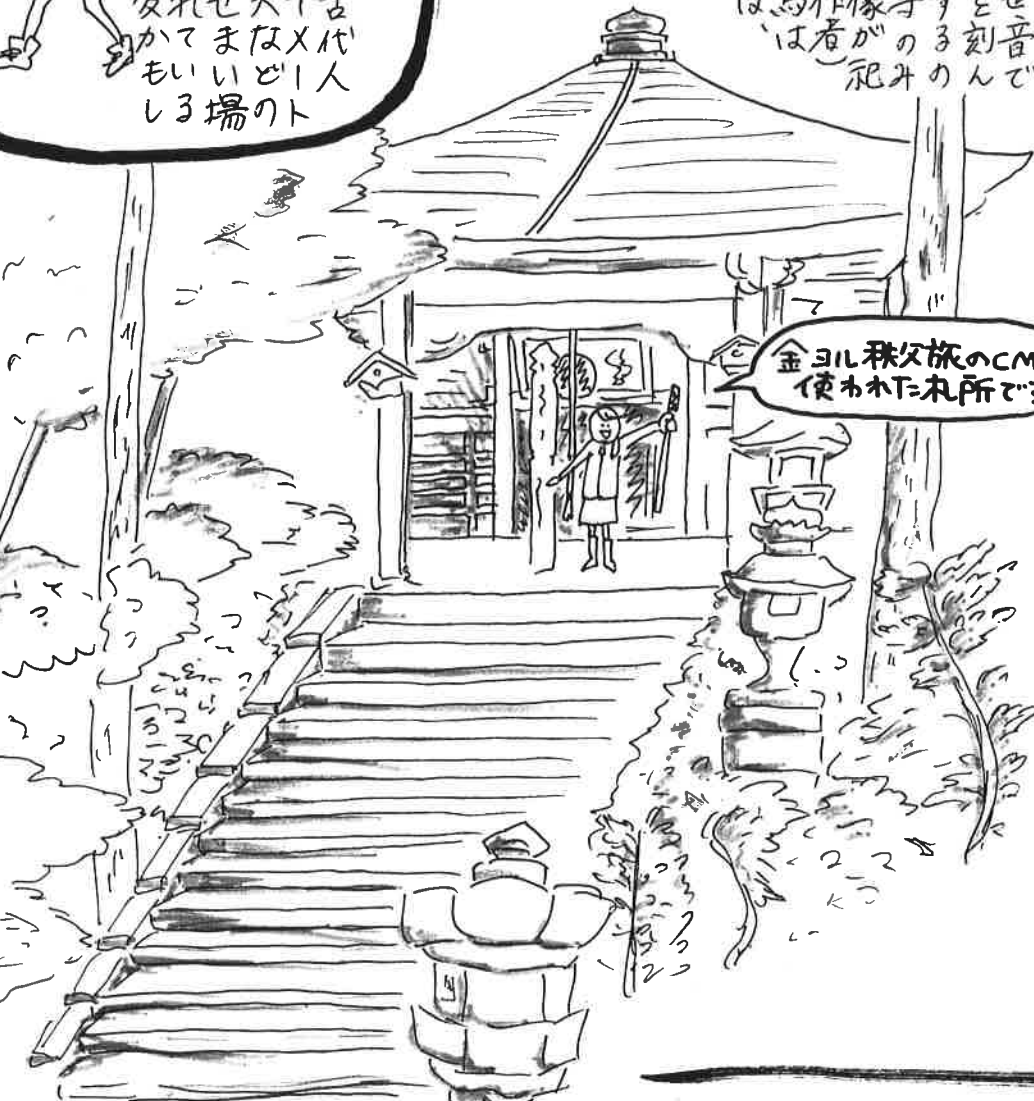
たぐひあらじと わたる橋立

武甲山西麓の切り立つような石灰石の断崖が六十五
メートルの高さでそびえ、その下に観音堂が建つてい
ます。宝永四年の建立といわれ、本尊は馬頭観世音で
す。像高二十八センチで、弘法大師が柚の老木を刻ん
だものとわかれていません。馬頭観世音を本尊とするの
は百観音霊場の中で橋立堂と西国二十九番松尾寺のみ
です。堂の右手には馬堂があつて、栗毛と白馬の像が祀
られており、左甚五郎(日光東照宮の眠り猫の作者)は
の作といわれています。昔は交通・運送の面で馬は
貴重な動力であり、一月十八日に行われる縁日には、
馬を連れて参詣する人も多かつたそうです。
このお寺は平安期に橋立寺として開創されて
より、明治初年まで修験行者へ山中で修行を
て悟りを得る行者)によつて守られてきた所
中数少ない寺の一つです。明治五年の修験道禁
止令により、現在は曹洞宗大淵寺境外仏堂とな

28番行なら
ヨヨも行こう!
『橋立鍾乳洞』

十二万年前にできたものとされ、古代人
の住居跡でもあります。洞内は百三十メートル
の長さがあり、鍾乳石や石筍には大黒、弁天などの
名前がつけられています。中は暗くせまい場
所や、上り下りが急で梯子がかげられてい
ると、上り下りが急で、年輩の方には大変か
れませんか。

中腰の状態がずいっとつまづ
上り下りが激しいので出るに汗だく
です!



金ヨル秩父旅のCMで
使われた丸所です!

帳開総歳牛甲所札父秩 院泉長山戸筥 番九廿

分けのぼり 緋が筥の戸 おし開き、

仏を拝む身こそ下のもし

元正天皇の頃、山の麓に龍女が現われ
不思議な灯りをもし、村人達はとても
気味悪がっていました。そこに十余人の
巡礼僧が立ち寄り、たので、村人は灯りの
ともる岩屋まで案内することにしました。
すると、岩屋から聖観音像が発見されました。
その後、村人達は僧の指示に従い、堂を建て、
聖観音を安置したそうです。

昔の観音堂は、寺の前方にある小山の頂上
近くの岩山に懸崖造りで建て、ていましたか、焼
失してしまつたので、江戸中期に移されました。
現在の堂内の天井は千社札を貼、たように
見せながら、実は文字を彫り、黒漆を塗、た
納札天井となっています。



帳開総年午甲所札父秩 寺雲法山竜瑞番三十

一心に南無観音と唱ふれば

慈悲ふか谷の誓ういたのもし

法雲寺のご本尊である如意輪観音は楊貴妃観音とも呼ばれ、唐朝の玄宗皇帝が寵愛した楊貴妃の冥福の為、自ら彫刻し、不空三蔵が開眼※しました。

その後一三一九年、鎌倉建長寺の道隱禅師

がこの地に招来安置したものだと言われています。

毎年、四月十八日の縁日と、十二年

ごとの午歳に開帳があり、その時は拝見する

ことができます。

楊貴妃伝説

※開眼(カイゲン)は仏像や仏画像を新しく作り、最後に眼を入れた仏の靈を迎えること

楊貴妃は世界三大美人の一人として教えられている

中国唐代の皇妃。夫の父親である玄宗皇帝が見初め

楊貴妃との愛に溺れ、政務を怠ったことから、傾国の

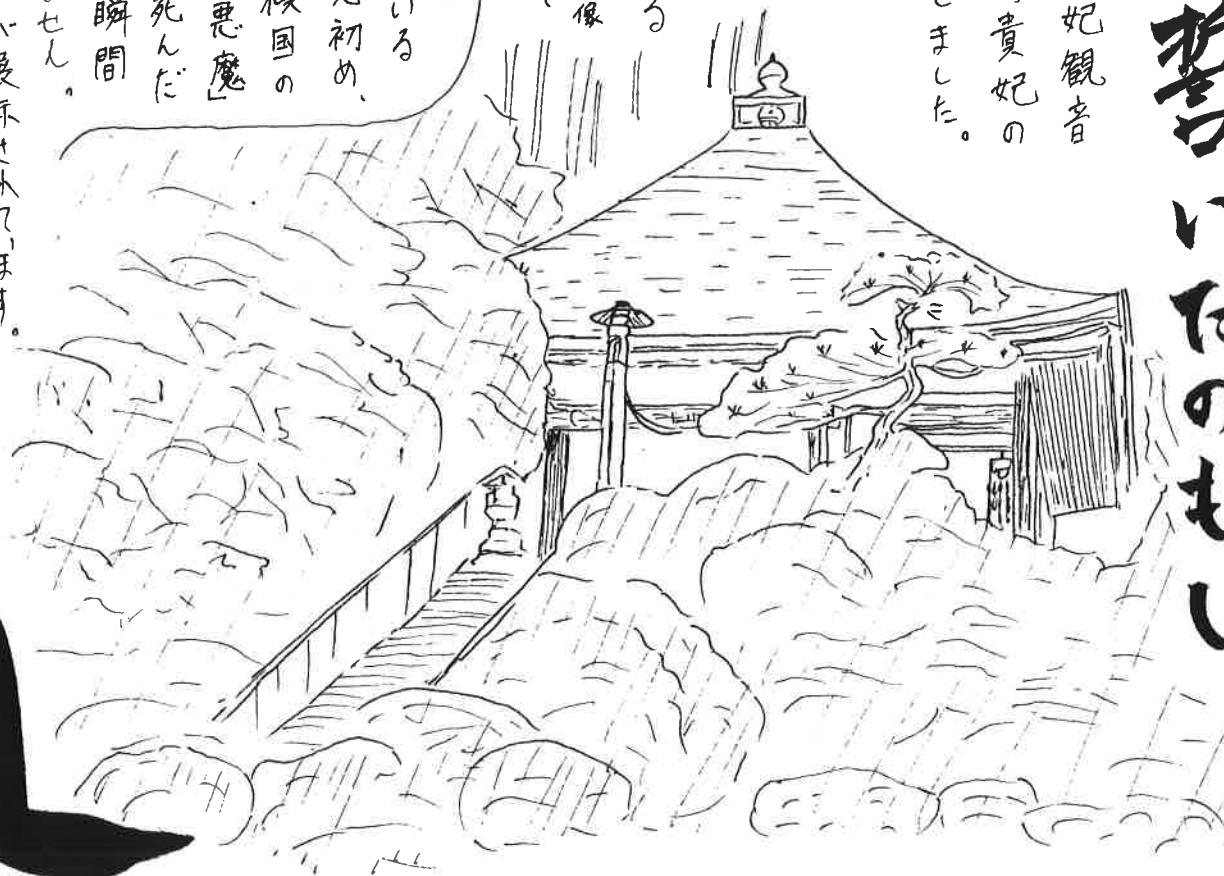
美女と呼ばれています。その後「皇帝を惑わせた悪魔」

と言われて暴動が起き、絹の布で首を絞められ死んだ

とされていますが、処刑されたのは密室で、処刑の瞬間

は誰も見ていないため、生存説が消えることはありません。

法雲寺には楊貴妃が使っていたとされる「楊貴妃の鏡」が展示されています。



大滝せせらぎ通信

No.26

1月号

丸太の集積

薪割り

12月は丸太の集積や薪割りを方々で頼まれました。大滝地域では薪ストーブを使ったり、薪で風呂を沸かしたりしている方が多くいらっしゃると思います。薪ストーブは非常に温かく、またすぐに温まります。

薪ストーブ等で使う薪は、間伐などで切り出された木を使います。切り倒した木を長さ120cm程に切り分け、丸太にします。丸太は丸太小屋へ集積し、1年間乾燥させます。乾燥させた丸太はさらに3等分にし、斧で割って、薪にします。この状態でも使えますが、さらに1年間乾燥させる方もいます。良く乾燥させた薪は良く燃え、また、煙も少なくなります。

山には間伐された木が放置されていることがありますが、せっかくの資源を活用しないのは勿体無く感じるので、今後活用していければと思います。

東京農業大学

交流事業

12月13日、14日、東京農業大学の皆さまが大滝を訪れ、大滝の方々と触れ合いながら、地域に残る文化について学びました。一日目は伝統食調理と薪割り体験を行いました。また二日目はダム見学と栃本集落の散策を行いました。

大学生をはじめ、若い人が地域を訪れ、そこに住んでいるの方々と交流することは、お互いに、素敵なことだと思います。今回の様な取り組みが来年度以降も継続して行われたらと思います。

私は、大滝を訪れた方々が何度も訪れたいくなるように、大滝にある魅力を磨き上げ、PRしていきたいです。

作成：秩父市地域おこし協力隊

吉本 隆久

お問い合わせ：大滝総合支所 地域振興課

TEL : 0494-55-0862(課内)

E-mail : ccb.localact@gmail.com

秩父市地域おこし協力隊

Facebookページも

ぜひご覧ください。

